

人の温もりを伝える「茶のみ場」

「茶のみ場」は、「みなまた茶」を急須で入れて飲める場所をつくってゆく取り組みです。ご持参頂いたマイボトル（またはマイカップ）に、ご希望の「みなまた茶」を低価格にてご提供いたします（設置場所によりセルフサービスの場合があります）。この取り組みは、マイボトル（またはマイカップ）持参による「PETボトルごみの発生抑制」と、「美味しいお茶を美味しい入れ方で味わって頂く」という2つの意図を持っています。ご存じの通り、PETボトルは利便性が高くリサイクルも可能ですが、リサイクルのためのエネルギー消費とCO₂発生が問題視されています。そのため、PETボトルの発生抑制（リデュース）は必須なのです。また、「茶のみ場」は、生産者との交流拠点を兼ねる場合もあり、美味しいお茶の入れ方から、お茶の種類や栽培、製茶のことまで、お茶に関するさまざまなことを、生産者が直接お伝えしてゆくことも考えています。

クリーンな環境づくりのために

水俣市では、平成21年11月22日に「ゼロ・ウェイストのまちづくり水俣宣言」を行ないました。この宣言は、市民・事業所・研究者・行政が参加する「ゼロ・ウェイスト円卓会議」にて多くの議論を交わしてつくられています。「茶のみ場」は、「ゼロ・ウェイストのまちづくり水俣宣言」における行動のひとつとして始まりました。「ゼロ・ウェイスト」とは、焼却・埋め立てに頼らず、ごみになるもの自体をなくしていこうという考え方です。この考え方に賛同する自治体が、ゼロ・ウェイスト達成（焼却・埋立ごみの発生ゼロなど）の目標年を決めてゼロ・ウェイストに向けた行動をしていくことを宣言する「ゼロ・ウェイスト宣言」は、世界各国の自治体にて行なわれています。

美味しいお茶を、あなたの街で

「茶のみ場」は、水俣市内の各拠点はもちろん、熊本県内外のイベント会場などに設置いたします。明るいお茶色の「のぼり旗」が目印です。どうぞお気軽にお越しください。

入れたてのお茶は、違う。



みなまた茶 JAあしきたプロデュースによる水俣産のお茶です。

生産者 水俣市茶生産協議会
代表 下鶴豊八
熊本県水俣市浜町2-5-17

販売者 あしきた農業協同組合
熊本県葦北郡芦北町佐敷424
Tel.0966-82-2515

(財)水俣・葦北地域振興財団助成事業



みなまた茶
茶のみ場
CHANOMI BAR

お茶を手から手へ。
和み結ぶ、和の文化。
色も香りも格別な
入れたてのお茶と
美味なるひとときを。





自然環境への深い思いが 一杯のお茶から香り立ちます。

鳥たちのさえずりが響く山里に立つと、はるかに望む波穏やかな不知火海がきらめいて見えます。ここは熊本県の最南端に位置する水俣市。九州山地の湧水を集めて流れる水俣川の河口から約7キロ、標高300～600mの丘陵地に広がる茶畑です。昼夜の寒暖の差が大きく、霧も湧き立つ山間部はお茶の生産に適しており、昭和の初期に入植者が拓いた茶畑は、薄原地区・石飛地区を中心に、合計で約90ヘクタールまで広がり、現在、24戸の茶農家が協力してお茶の生産を行なっています。水俣市は、経済成長の過程で発生した水俣病の教訓を軸として、平成4年11月14日に環境モデル都市づくり宣言を行ない、翌年、環境基本条例を制定しました。以後、行政と市民が連携して地球温暖化防止活動や環境保全活動に取り組み、平成20年7月22日、“環境モデル都市”に認定。日本有数の環境先進地として、地域一体となって安心・安全な農業を追求しており、お茶についても農薬・化学肥料の使用量を抑えた栽培から農薬・化学肥料・有機肥料を使わない栽培まで取り組みを進めています。

「環境との調和を」…たった一杯の「みなまた茶」から立ち上る爽やかな香りとやさしい味わいに、水俣に生きる茶農家の、循環する生命への深い愛情と願いが息づいています。



薄 Susubaru 原



石 Ishitobi 飛